情報誌とITの活用でボランティア支援 独身者支援で社会的孤立への対応強める

北海道の元気！NPO訪問 44 NPO法人 ボラナビ倶楽部

文・加藤知美

◇ 情報誌の発行でボランティアをマッチング

『月刊ボラナビ』という月刊のフリーペーパーを見かけたり、手に取ったことのある人は多いはず。一九九八年に創刊、毎月約三万五〇〇〇部発行されているボランティア情報誌だ。ボランティアをしたい人としてもらいたい人をつなぎ続けてきたのは、「NPO法人ボラナビ倶楽部」。札幌の大通公園近くのオフィスビルにある事務所を訪ねた。印刷が終わったばかりの二月号が印刷会社から納品されてきたところだった。毎月二五日には、札幌市内外の大学、書店、スーパー、駅など約一千カ所に配置される。

創刊した年は、NPO法が成立し、ボランティア活動や市民活動の団体が法人格を持てるようになったものの、NPO活動が注目されることは今よりはるかに少なく、こうした団体がボランティアを独自に募集するのは大変だった。そうしたなか、当時二〇代だった若者一〇人がボランティア情報誌を発刊しようと集まった。現在代表理事を務める森田麻美子さんが、アメリカの「ニューヨークケア」という団体がボランティアのマッチングをしていることにヒントを得て呼びかけたのだった。ボランティア元年と言われる阪神淡路大震災が起こった一九九五年から間もなくのことで、感度の良い若者を中心にボランティアへの関心は比較的高かったという。無料配布の紙媒体を毎月発行するには、配布に協力してもらえる学校や店舗を確保するほか、印刷や配送に要する経費をまかなうために企業や個人からの協賛金を集める必要があった。一万円以上の寄付を毎月継続してもらうなどの工夫で熱心に支援を依頼してまわった。

『月刊ボラナビ』は、創刊から毎月欠かさず発行され、現在一五年目に入った。ボランティアの募集、NPO・NGOの主催する学習会やイベントのお知らせなど様々な活動に関する情報が掲載されている。情報掲載した活動団体へは、記事を見た人からボランティアの申し込みや問い合わせがあるばかりでなく、掲載がきっかけでマスメディアに取り上げられ話題になるケースもあるという。広告スペースにはイベント告知や介護事業などのスタッフ募集などが並ぶ。創刊当時は、NPOという言葉の認知度があまりにも低かったため、誌面でNPOという言葉をなるべく使わずに情報提供するよう心がけたほどだったそう。

創刊15年目の『月刊ボラナビ』。1000カ所で配布のほか、一部新聞折り込みもされている。

◇ 積極的なIT活用、先駆的試みを続ける

現在は、ホームページでも北海道全域のボランティア情報一六〇〇件を提供しているほか、登録した個人がエリアや活動日、分野などの希望に合うボランティア情報のメール配信をうけることができる仕組みもある。

ボラナビ倶楽部のIT活用への取り組みは早かった。二〇〇一年には、インターネットで活動

団体を紹介し、それを見て応援したいと思えばコンビニでの入金で募金ができる「ねっとぼ金」を開設した。二〇〇五年一一月の終了まで七五団体に募金を届けた。今でこそクラウドファンディングという、起業や新規プロジェクトなどに対して不特定多数がインターネットを通じて資金を提供する考え方が話題を集めているが、今から一〇年以上も前の実に先駆的な試みだった。二〇〇五年にはマイクロソフト社の助成事業を利用してボランティア情報検索サイトを開設し、二〇〇八年には日本財団の助成で検索機能を強化し、現在のウェブサイトに引き継がれている。二〇一二年からは、フェイスブックも活用して交流を重視した情報提供も始めた。

一般的に言えば、新聞や郵便などの紙に印刷された文字による情報伝達は、年々縮小している。活動の原点でもあり事業の柱でもある紙媒体としての『月刊ボラナビ』の発行と並行して、インターネットを活用したデジタル情報の提供を進めていることについて、森田さんに尋ねた。「紙媒体への強いこだわりがあるわけではなく、どちらも欠かせないと思う。紙の冊子なら、スーパーでの買い物の折にたまたま手にすることで思いがけない出会いがあるかもしれない。一方、デジタルの情報もスマートフォンなどの普及やSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の展開により情報の大きな広がりを期待できる」と言う。

事務局は編集のほか、インターネットでの情報発信、交流会の運営など多忙だ。

◇ 新たな事業「お独り様会」で独身者の居場所づくり

長年続けてきた情報誌の発行に加え、二〇一一年からもう一つの事業の柱ができた。「お独り様会」の運営だ。未婚者が増え、離婚や死別も含めた独身者が増えているなか、そうした人と人をつなぎ、居場所づくりをするのが目的である。

会員になるには、自身の経験や思いを八〇〇字でまとめた原稿を送り、文集に掲載される。道庁の補助金を受けて二年目の事業だが、新聞やテレビで紹介されたのをきっかけに広がり、今や四五〇人を超える会員がいる。毎月新しい文集が送られてくるほか、オフ会が開催され、ゆるやかに交流を深めている。会員による自発的な活動も始まっている。

独身である理由や抱えている問題は様々だ。高齢であれば独居であることの不安、若い世代の場合は就労が不安定であることによる生活の厳しさなど。そうした境遇を分かち合える友人ができれば安心につながる。独身者といえば、短絡的に結婚相手を探していると思われ、結婚相談所が年収などの条件をもとにマッチングを行っているが、「お独り様会」の場合は、同性異性を問わずに同じ立場の人が出会い、人と人とのつながりをつむいでいくのだ。

「単身世帯は二〇三五年には四割に達する」と国立社会保障・人口問題研究所が二〇一三年一月に推計した。高齢者世帯も単身世帯の増加が見込まれ、介護や見守りを社会がどう支えていくかが問われている。「お独り様会」は二〇一三年度より補助金なしの自主運営となるため財政的には正念場だが、ITや通信技術を活用したサービスの提供などの事業展開で、独身者のニーズに応えていく考えだ。創立当初からの『月刊ボラナビ』発行などのボランティア情報提供事業、そして、新たに始めた「お独り様会」運営事業、この二本の柱により人のつながりを築き、「孤立」、「孤独」という社会課題の解決をこれからも目指していく。

「お独り様会」オフ会の様子。ビアガーデンやレストランで開催することも。

◆ NPO法人ボラナビ倶楽部
所在地　札幌市中央区南1条西7丁目12－5
大通パークサイドビル3階
TEL　011－242－2042
（火・木・土曜日10時～13時）
WEB　http://www.npohokkaido.jp/volunavi/